

R 7 ほめ言葉のシャワーの取組について

研究主任

1. 本校が取り組むほめ言葉のシャワーとは・・・

一人ひとりの良いところやがんばりを見つけ合い伝え合う活動

(「小学校発！一人ひとりが輝くほめ言葉のシャワー」 菊池省三 日本標準)

2. ほめ言葉のシャワーのねらい

①自己肯定感を高める

友だちから様々なほめ言葉を受けることによって、自分のいいところを再確認したり、新しい良さを発見したりすることを通して、自己肯定感を高める。

②学級に受容的な雰囲気を作る

お互いの良さを見つめ直し、相手の立場に立って考えることができるようになったり、毎日様々なほめ合う言葉に接したりすることを通して、学級に受容的な雰囲気を作ることができる。また、共感的な人間関係を育み、教室を自信と安心の場所にする。

3. 取り組み方 基本編

[朝の会で行う 10分程度]

- ①その日の主人公の子どもが一人前に出る
- ②残りの子どもと教師が、その子のいいところやがんばりを順番に伝えていく
- ③全員の発表が終わったら、前に出ている子どもが感想をみんなに伝える
- ④最後に、教師が活動を振り返って価値づけを行う

(問題点)・・・全員発表すると10分以上かかり終わらない場合がある。



4. 取り組み方の工夫

- ・学級を半分に分けて、二日かけて伝えるようにする
- ・学級を半分に分けて、半分が言葉で伝え、半分が付箋に書いて伝える
- ・一人ひとりが良いところを付箋に書いて、それを教師が集め、一つにまとめて主人公の児童に渡す
- ・カードにコメントを書いて、互いに渡し合う など

5. 質の高まりを意識した年間の見通し

4～5月	「ほめる・認め合う」を学級の日常にする→ <u>ほめること、ほめられることに楽しさや喜びを感じる</u> (教師の発言・授業での振り返り・帰りの会での認め合い など)
6月～	その学級でのほめ言葉のシャワーの活動で大切にしたいことややり方を、児童と共有し、スタートさせる (<u>2年生以上は、昨年度の取組を振り返り、ほめ言葉のシャワーの取組の良さや意義について十分確認するようにする</u>)
12月～	ほめ言葉のシャワーの学級内でのブラッシュアップと2巡目のスタート (学級掲示や映像での振り返り、価値語との関連づけ、互いに参観し合う 抽象的な言葉から具体的な言葉へ、グループでキャッチフレーズを考える、等)

6. 学級内でのブラッシュアップに向けて

- ① 巡目の振り返りを行う
- ・どんな言葉を言われるとうれしかったか
 - ・どんな伝え方をされるとうれしかったか
 - ・聞いている人は、どんな聞き方をするとうれしいか
- ② 伝える内容の質を高める
- ・抽象的な言葉→具体的な言葉
 - ・価値語を使ってほめる
 - ・自分と比較しながらほめる
 - ・過去、現在、未来の姿を比較しながらほめる
 - ・マイナスをプラスにかえる表現でほめる

(「菊池省三の365日の学級経営」 菊池省三 明治図書)

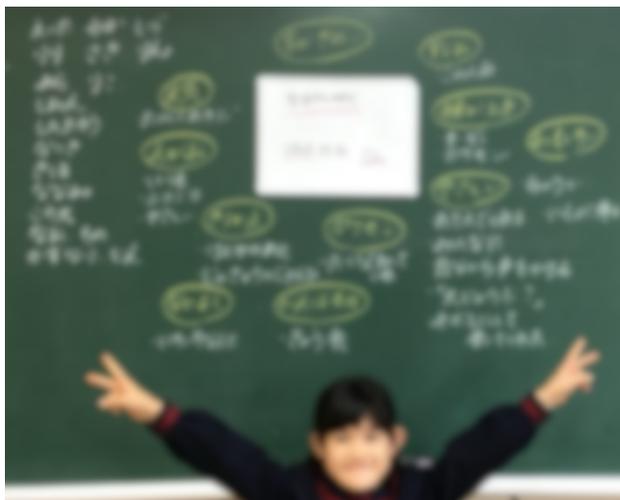
7. ほめ言葉のシャワーの可視化の例



○ほめ言葉を板書することのメリットとデメリットから

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> ・ほめ言葉を可視化できる。 ・ふりかえりや価値づけに活用することができる。 ・ほめるときの視点を広げることができる。 ・板書をヒントにしながら、ほめ言葉を話すことができる。 ・具体+自分の気持ちを意識しながら話そうとする子が増えてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人ひとりの表情を見ることができない。 ・子ども同士の微妙な関係性を見とれない。 ・ほめ言葉が沢山でくると、板書が追いつかない。 ・主人公のことをじっくり見ていなくても、板書を見て答えることができる。

(個人の写真)



(学級掲示の例)

